

# むらまち通信

第108号

2013年 1月28日 発行



## 「冬の果樹園を歩こう」を実施しました。



### ○ 実施状況

- ・日 時：平成25年1月27日（日）10時00分～
- ・場 所：砥山ふれあい果樹園、西本果樹園
- ・主 催：八剣山発見隊
- ・参加者：11名（吉田隊長、椿、原口、近藤、平田、高島、志田、紺谷、八戸、小川、塚本）

八剣山発見隊の今年最初のイベントです。スノーシューを履いて八剣山の周辺を歩きます。積雪は90センチほどに達しており、スノーシューを履かないと腰近くまで雪に埋もれ、歩くことは困難な状況です。

集合場所の砥山ふれあい果樹園は、朝から降り出した雪が15センチほど積もっており、果樹園の入り口では積もった雪にタイヤを取られて路肩にタイヤを埋めた車もありました。参加者の協力により時間はかかりましたが、無事に路肩から脱出することができました。

本日の予定についての説明中も雪は降り続けていましたが、散策を続けるに従って少しずつ小やみとなって、終了時には雲の切れ間から青空ものぞくようになりました。

スノーシューは、吉田隊長が10台用意していましたが、そのほかにも、自分で購入したスノーシューを持参している参加者も見受けられました。

砥山ふれあい果樹園の石造りの倉庫前から出発し、リンゴやサクランボの木の間に1列になって進みました。枝に付いたつぼみは寒い冬を乗り越えるため固く締まって冬眠中。

雪が小やみになった時は雄大な八剣山の勇姿も眺められ、歩いて移動するに従い見る方向が変わるため、その姿の変化を楽しむことができました。

西本果樹園はサクランボやリンゴの木の周囲を電気牧柵（電牧）で囲みエゾシカやヒグマからの被害を防いでいます。電牧には近寄らないコースを歩きました。

栗林の中で小休止し、スノーシューの紐を再度締め直して出発。途中の西本宅に立ち寄った時には、参加者に1個ずつリンゴの差し入れがありました。



果樹園の中を散策



栗林の中で小休止



開始に当たっての説明



スノーシューの取付け



西本果樹園の栗林から望む八剣山



発行：塚本むらまち計画研究室  
主 宰 塚 本 保 弘

061-1276

北広島市大曲緑ヶ丘6丁目10-10

携帯電話：090-7515-7057

E-mail : fhuka@rose.ocn.ne.jp